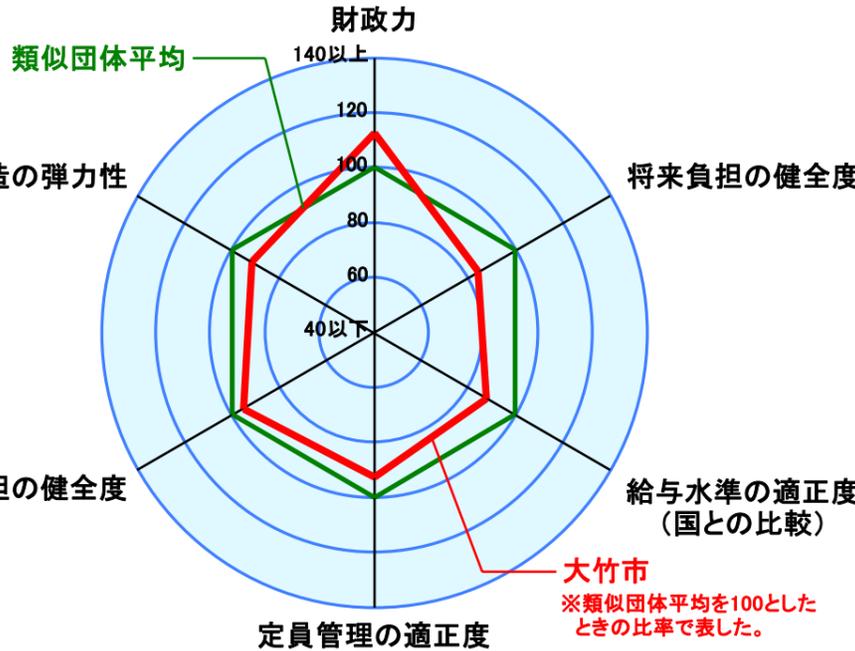
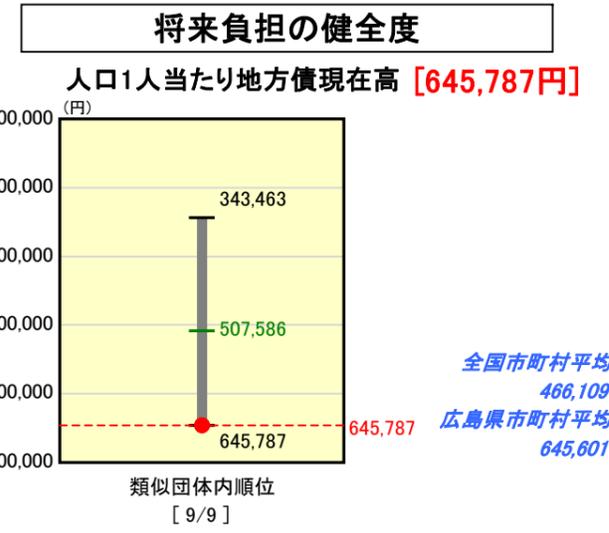
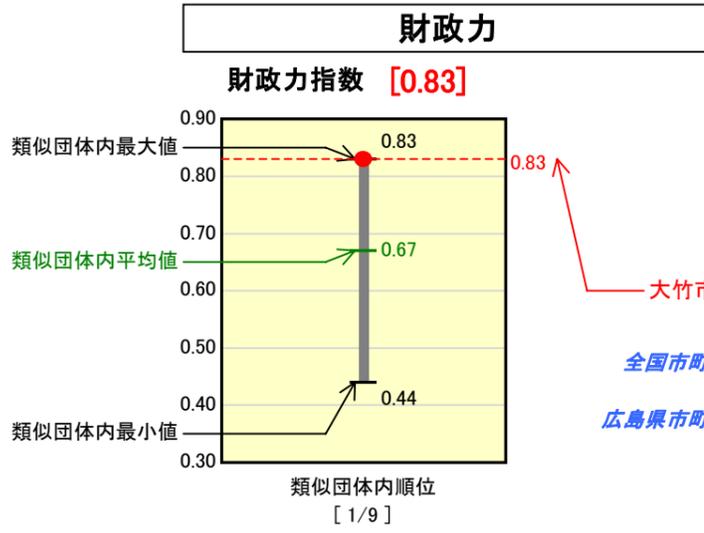


# 市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

## 広島県 大竹市

人口	30,289人(H17.3.31現在)
面積	78.13 km <sup>2</sup>
歳入総額	12,423,363千円
歳出総額	12,182,446千円
実質収支	222,404千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

### 分析欄

【財政力指数】  
・瀬戸内地区で有数の臨海工業地区であり、企業からの市税収入が多いため、類似団体に比べると財政基盤が強く、徴収体制の強化による歳入確保にも取り組んでいる。しかし、一般財源総額では特別交付税が類似団体に比べて突出して低額であるため、指数の高さをもって実質的な財政力が強いとは判断できない要素がある。

【経常収支比率】  
・平成16年度は、退職者の増による人件費の増加、普通交付税、臨時財政対策債の減少により類似団体平均を上回っている。今後は、ごみ固化燃料施設建設事業などの大型事業の元金償還の開始による公債費の増により、経常経費の増加が懸念されている。退職者不補充などによる職員数削減の継続などの行財政改革を行い、総人件費の圧縮に努めていく。

【起債制限比率】  
・ごみ固化燃料施設建設事業などの大型事業の元金償還がまだ始まっていないため、類似団体に比べ比率はそれほど高くないが、今後は大型事業の元金償還、大願寺地区造成事業の解決に向け普通会計から支援を行うため、比率の上昇が懸念される。普通建設事業費を大幅に圧縮し、プライマリー・バランスの黒字化を図ることによって、起債に依存した体質からの脱却を図り、地方債残高の圧縮に努めている。

【人口1人当たり地方債現在高】  
・平成13年度以降、ごみ固化燃料施設建設事業などの大型事業の実施により、大幅に増加している。普通建設事業を見直し、継続してプライマリー・バランスの黒字化に取り組み、財政健全化を図る。

【ラスパイルズ指数】  
・階層別ラスパイルズ指数の較差が大きいため(特に若年階層が高い傾向にある)、若年階層の給与体系の見直し、枠外昇給制度の廃止などの措置を講じながら年功的な給与構造から職務・職責に応じた給与構造への転換を図るなど、給与の適正化に努める。

【人口1,000人当たり職員数】  
・石油コンビナート有する地域性から、市単独で消防本部を設置しており、平均を上回る職員数となっている。大竹市行財政システム改善実施計画(平成16～18年度)に基づき、平成15年4月1日から平成19年4月1日までの間に全職員の20人を削減するよう職員数の適正化を図った結果、平成17年4月1日現在で26人削減した。今後もより簡素で効率的な行政の確立を図るため、平成22年4月1日現在の職員数330人(平成17年4月1日現在358人から約8%減)を目標に職員数の削減に努める。

